

夢洲調査報告 20190715 (水辺のいきもの)

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 生物多様性委員会



その日は祝日だったため、環境組合管轄の1区に入場することはかなわなかったが、11時から15時ごろまで、2区3区のエリアで調査をした。今回もまた、池のエリアが減少している。

2区の工事は続いていたが、3区は工事が休みだった。

草の上はたくさんのコフキトンボやアオイトトンボが飛び回り、水の中にはアカムシ、オタマジャクシ、ヤゴなどが多数見られた。水生昆虫も採集。これらは観察後、戻した。

石を動かすと、巨大なワラジムシ。かなり大きいので、山西先生が持ち帰り同定するとのこと。(追記：後日クマワラジであることが報告された)



野鳥類は前回と変わらず、カイツブリの営巣、カルガモの子育てが見られ、また、ウミウ、サギ類も多かった。



今回はなんとハヤブサがずっと止まっていた。チョウゲンボウは必ず顔を見せてくれる。



2区と1区間の尾根の道に、野ネコが出ていた。休みの日は人間が来ないので、エサがほしくて道で人間が来るのを待っているのかもしれない。

昆虫類は相変わらず多く、草地のバッタは外来種のアカハネであった。



3区南側岸壁水中には、エイがたくさん集まっていて、岸壁に吸着している貝を食べている様子が観察できた。



風が弱く、大変蒸し暑い日だった。

(調査参加：山西良平 河合典彦 野田奏栄 磯上慶子 加賀まゆみ)